地域にはぐくまれて100年―― 公益財団法人宮城厚生協会　坂総合病院 広報誌

SAKASO［さかそう］

ご自由にお持ちください

特集

自動車運転支援チーム



2026.10 Vol.80

おしらせ

第43回「健康まつり」を開催します



今回の健康まつりのテーマは、「ひろがれ、つながれ、健康づくり」。医療講演や健康チェックなど楽しく健康について知ることができる内容だけでなく、フリーマーケットや大抽選会など、子どもから大人まで楽しめるコーナーも用意しています。
ご家族やご友人、ご近所の方などと一緒にぜひお越しください。

■日時：2026年10月25日（日） 10:00～13:15
■場所：坂総合病院、坂総合クリニック、坂総合病院第１駐車場
■参加費：参加協力券300円 ※中学生以下無料
■内容：医療講演（片平敦子院長、庄司とも子医師）、友の会サークル発表、健康チェックコーナー（血圧、血管年齢など）、ちびっこ広場（こども薬剤師体験など）、フリーマーケット、模擬店、大抽選会、各種展示など
■問合せ：022-367-9027（友の会事務局）

診療予約・変更・お問合せ

まずはコールセンターへお電話いただき ご確認をお願いいたします。

コールセンター 022-361-8288

●平日　8:30～16:30（小児科のみ8:00～）
●土曜　8:30～11:30（小児科のみ8:00～）
※日曜・祝祭日、年末年始（12/30～翌年1/3）、8/16（お盆）は休業。

◎紹介状をお持ちの方は、必ずその旨をお伝えください。
◎上記時間以外で救急診療のお問合せは、病院代表番号（022-365-5175）にお電話をお願いします。

詳細はwebサイトでもご確認いただけます。
坂病院 検索　https://www.m-kousei.com/saka/

表紙について

リハビリテーション業務で忙しい日々を送る自動車運転支援チームの3人。それぞれにオフの日の楽しみである趣味のアイテムや大切なものを持参してもらい、表紙写真の撮影に臨んでいただきました。理学療法士の長沼 宗さんは、思わず目を引くデザインのヘルメットとグローブを。作業療法士の伊藤美里さん・言語聴覚士の根來亜希さんは、それぞれに愛するペットの写真を持っています。
●表紙撮影／坂総合病院

周辺地図

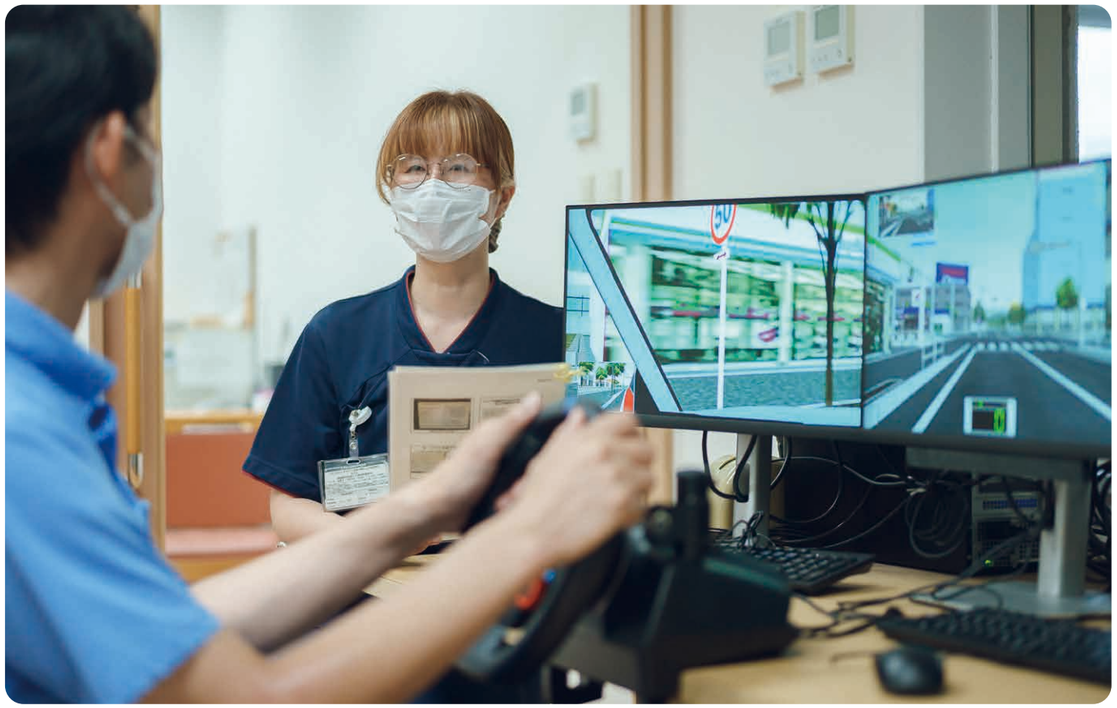


電車の場合 ▶ **JR仙石線・下馬駅**下車。駅前が当病院です。

お車の場合 ▶ **第三駐車場**は、当院ご利用の方は**無料**です。
第三駐車場と病院間の**送迎バス**を運行しています。

SAKASO 坂総合病院 広報誌［さかそう］
2026年10月1日発行

坂総合病院
SAKA GENERAL HOSPITAL
〒985-8506 宮城県塩釜市錦町16-5
https://www.m-kousei.com/saka/
【広報誌に関するお問合せ】Tel 022-365-5175（代）



担当患者の運転評価を行う、作業療法士の伊藤さん。ドライブシミュレーターの操作に不慣れな高齢者も多いが、ポジティブな声がけを忘れない

毎回テーマを変え、坂総合病院の今を発信。
今回は自動車運転支援チームをピックアップします。

特集

自動車運転支援チーム

頭や脳に一時的にでも障害を持った方の「また運転したい」を支えるこのチーム。運転スキルを見極めながらも患者さんに伴走するその役割について、言語聴覚士の根來さん、理学療法士の長沼さん、作業療法士の伊藤さんにお話を聞きました。

安全性を第一に、運転再開までの道をリードする

運転できたかつての日常を安全に取り戻すために

――理学療法士、作業療法士、言語聴覚士として、チームではどのような役割を担っているのですか？



長沼　坂総合病院の自動車運転支援チームは、医師をはじめ理学療法士、作業療法士、言語聴覚士の8人で構成されています。医師の指示を受けてセラピスト2人がペアを組み、担当する患者さんの検査を担当します。運転再開を希望する患者さんには身体機能と高次脳機能の両面から総合的に評価するのですが、理学療法士と作業療法士は、主に患者さんの体の動きに問題がないかどうかを評価しています。基本的に脳卒中の患者さんを診るので、左右の手足の動きに差はないか、麻痺がどの程度残っているのか、普段から生活に支障なく歩くことができているのかなどを見ています。また、自宅での日常的な活動量を測るための聞き取りも大切な検査のひとつ。仕事で運転するのか、旅行に行くために運転がしたいのかなど、運転の目的を聞いたり、ドライブシミュレーターを使った検査を担当したりするのも私たちの役割です。



根來　言語聴覚士は高次脳機能の評価で患者さんと関わることになります。脳卒中の影響で注意力や判断力が鈍っていないか、目的地まで運転をする計画を立てて実行できるか、しっかり周囲の看板や標識が見えているのかどうかの検査だけでなく、検査を受けているときのパフォーマンスも評価の一部になっています。回復期病棟に入院中で運転を希望する患者さんには、入院中から運転に向けたリハビリを行うこともあります。運転できるかどうかの判断は医師が行うので、医師が運転できるかどうかの判断材料を揃えるのが私たちの仕事です。



伊藤　一人で運転するのか、またはサポートしてくれる同乗者がいるのかも大きな判断材料になりますね。運転を再開する目的は患者さんによって様々ですが、地域柄、「車がないと買い物や通院ができない」という人もいます。車を運転できないことが死活問題に直結するという理由から評価を受けに来られる人も多くいますよ。

――自動車学校での実車評価ではどのようなことを行うのですか？



長沼　自動車学校の先生が助手席に座り、患者さんの運転を確認します。私たちは後部座席で患者さんを撮影しますが、何か指示を出すことはありません。教習所内では右折や一時停止の様子を確認するほか、S字やクランク、バックでの駐車ができるかどうかを一通り行い、その後、一般道での運転の様子もチェックします。



根來　ペーパーテストが苦手な高齢の患者さんも多いですが、そこでうまくいかなくても、車に乗ってみると体が運転操作を覚えていることがよくあります。実車評価は運転再開において重要な評価とされていることもあり、実車評価に一番の重きを置いています。



長沼　ただ、脳卒中の患者さんの中には自分は病気を患ったのだという認識がない人も一定数いるんです。私たちから見れば明らかに運転に支障があるけれど、自分自身では今まで通り運転できると思っていたり、病気後の運転にまったく緊張しない方もいるほどです。しかしいざ運転してみると、すぐに教官が



チームカンファレンスの様子。SDSAというスクリーニング検査を使用し、患者さんの評価を行っている

ブレーキを踏む、なんてこともあります。だからこそ私たちには、患者さんの状況を明らかにする義務があるのです。「また運転したい」という患者さんの気持ちに寄り添いつつ、見落としのない検査を行うことには常に緊張感を持っています。

試行錯誤しながら、手探りで実績を重ねた日々

――坂総合病院には、2013年から自動車運動支援チームがあると聞きました。いち早く運転再開の思いをサポートしたのはどのような思いがあったからなのでしょうか。



根來　私はチームを立ち上げた当初のメンバーですが、当時から脳疾患を発症した後に運転再開を希望する患者さんがいらっしゃいました。しかしその当時はリハビリスタッフが個人的に患者さんをサポートしていたこともあり、どんな手順や評価が適切なのか手探りのまま進めるような状況でした。そこから、一度チームとして実績を積み上げてみようという声が上がり、坂総合病院の自動車運転支援チームが立ち上がった経緯があります。

まずは、運転チームを立ち上げることをリハビリ室の中で周知するところからスタート。その後、運転再開を希望する患者さんがいた場合は自動車運転支援チームに情報を集約してほしいという呼びかけを行ない、徐々に現在のチームのような形になっていきました。

――チーム創設から13年。現在までどんなことがブラッシュアップできたと感じますか？



根來　発足当時はまだ全国的に運転支援の制度が進んでいない頃。それでも少しずつノウハウを蓄積していく中、メンバー達が学会発表を重ねたことで坂総合病院の自動車運転支援チームの認知にもつながり、他病院から研究に協力してもらえるまでになりました。そんな中で全国的に運転支援の大切さが知られるようになり、高次脳機能学会では運転再開のために必要な検査や評価基準が設けられたり、評価のために必要なスクリーニングテストが定められたりと、次々に制度が確立されていきました。運転支援のニーズが高まっているのに合わせて、私たちも歩みを進めてきた実感があります。現在では法律の改定などに合わせてその都度ブラッシュアップしつつ、支援内容を見直しながら進めているところです。

患者さんの支援とともに社会問題にも目を向けて

――チームの課題と今後の展望について教えてください。



長沼　患者さんの中には遠方から来ている方もいます。別の病院で支援を受けることができなかったけれど、当院のHPを見て連絡をくれたそうです。私たちの情報がもっと広く伝わると幅広い世代の支援につながるので、多くの人に伝える手段も考えていきたいですね。また最近では高齢者ドライバーの問題が社会問題になっていますが、運転評価をきっかけに自分自身の運転スキルを認識できるような機会が作れたらと思います。



伊藤　私はチームに加わって日が浅く、目の前のことに一生懸命な毎日です。今後チームの活動を通して経験を積みながら、実車評価でのポイントなどをしっかり把握していきたいと思っていますし、他職種や地域との連携にも力を入れていきたいです。

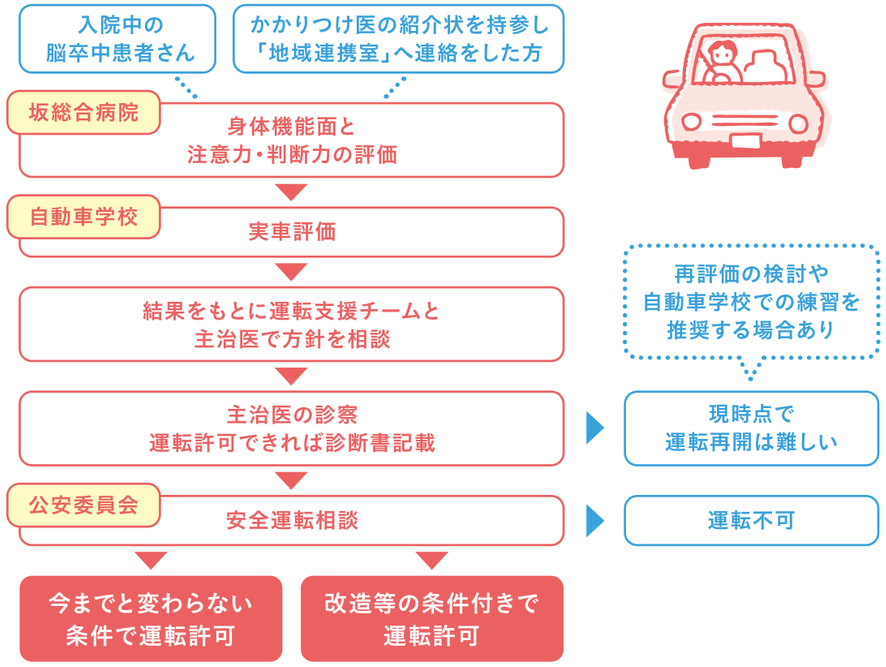


根來　運転再開が難しいと判断した場合、その患者さんは別の交通手段を利用することになりますが、バスは本数が少なかったり、駅まで移動するタクシーで金銭的な負担が増えたりと、新たな問題が生まれてしまいます。地域課題にも目を向けると、車が運転できなくなった後の移動手段がより発展する社会になるといいなと感じています。チームとしては、目の前の患者さんに向き合うのみ。これまで積み重ねてきた実績を何らかの形で発表できる機会もどんどん増やしていきたいですね。

SAKASO TIPS

運転再開に向けてどんなことをするの？

リハビリテーション科の医師と理学療法士・作業療法士・言語聴覚士で構成された、坂総合病院の自動車運転支援チーム。2013年にチームを立ち上げる以前から、近隣の自動車教習所と協働し、運転再開を願う患者さんのための実車評価を行ってきました。2024年～25年の1年間で支援した人数は58名。そのうち45名が運転再開に至っています。



運転再開の意向確認をはじめ、身体機能評価、神経心理検査、ドライブシミュレーターを使用した運転評価、自動車教習所での実車評価などの支援をリハビリテーションスタッフが行い、医師が診断書を作成する際の情報を収集・提供をしています。

※当院での評価は安全な運転ができるかを評価するためのものであり、自動車運転の再開を確約するものではありません。ご了承ください。

連携医のご紹介

医療法人寶樹会
仙塩総合病院

［ 内科・整形外科・形成外科 ］



院長
茂泉 善政 先生
（もいずみ よしまさ）



内科・整形外科・形成外科
医療法人寶樹会 仙塩総合病院

〒985-0842
宮城県多賀城市桜木2-1-1
TEL 022-367-4111
URL https://sen-en.jp/sougou/

〈外来受付時間〉
午前は8:30から、午後は13:30から
※各科の受付時間の詳細、診療予定は
ホームページをご覧ください



地域医療の担い手として

仙塩総合病院は、「思いやりと最良の医療」を提供し、「信頼され・選ばれる」病院となり、地域医療に「永続的に貢献」するという基本理念に沿って運営しています。

当院には、在宅や施設より入院治療が必要な患者さんや急性期病院での治療は終了したものの継続加療の必要な患者さんなどを対象とした一般病棟、急性期治療を終了した患者さんに対して在宅や介護施設への復帰支援に向けた診療・リハビリを行う地域包括ケア病棟、医療提供の必要度が高く療養を継続的に行う必要のある慢性期の患者さんを対象とした療養病棟があります。こうした病棟機能を活かし、地域医療の担い手としてさらに坂総合病院のような急性期病院の後方支援病院としての役割も担っています。

また訪問看護ステーションを併設し訪問看護・訪問リハビリテーションを行い高齢者の在宅療養を支援すると共に、地域連携室・居宅介護支援事業所を設置し介護・医療などの幅広い問題について支援を行っています。地域の中核病院である坂総合病院とは、今後とも連携を強化し地域医療の一翼を担っていきたいです。

坂総合病院から

日頃より大変お世話になっております。転院相談の際は、いつも院長の茂泉先生を筆頭に地域連携室の皆さまが迅速に対応してくださり感謝しています。例年、冬の時期に入ると当院も空床の確保が厳しくなります。仙塩総合病院への相談もさらに多くなると予想されますが、引き続きよろしくお願いいたします。

健康運動指導士 Presents 宅トレラボ

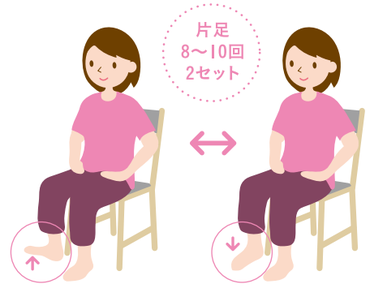
#24 貯筋運動①

「みやぎ東部健康福祉友の会」が様々な地域で開催している「自宅で簡単健康ストレッチ」。そこで紹介している運動を誌面でもお届けします。今回から加齢による筋力低下を防ぐ「貯筋運動」がスタート！

つま先を動かす運動

❶「1, 2」とカウントしながら、片方のつま先をゆっくり上げる。
❷「3, 4」とカウントしながら、ゆっくり下ろす。
❸ 反対側のつま先を同様に動かす。

★ポイント　つま先を下ろす際は力を抜かずに静かに下ろしましょう。
片足（8〜10回）×2セットが目標です。



健康運動指導士とは…？
個人の心身の状態に合わせて安全で効果的な運動プログラムを作成し、実践指導や計画の調整を行う専門職。公益財団法人 健康・体力づくり事業財団が実施する民間資格です。

栄養手帖 –食養室だより–

ビタミンCを摂ろう！

ビタミンCが豊富な秋の食材。水溶性ビタミンであるビタミンCは人間の体では合成できないため、食事から積極的に摂りましょう。

ビタミンCが不足するとこんな恐れが…

皮下出血
骨形成不全
壊血病（かいけつびょう）
貧血



ビタミンCは柿やさつまいも、みかんなどの生の果物や野菜、芋類に多く含まれます。また鉄分の吸収を助ける働きがあり、鉄分を多く含む食材と一緒に摂ると貧血の予防にもつながります。
おいしい秋の食材からビタミン C を食事に摂り入れて、健康な毎日を送りましょう！

ビタミンCが多く含まれるもの

